2022年2月期　第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月12日

上場会社名　株式会社 吉野家ホールディングス　上場取引所　東
コード番号　9861　URL　https://www.yoshinoya-holdings.com
代表者　(役職名)代表取締役社長　(氏名)河村 泰貴
問合せ先責任者　(役職名)グループ財務経理本部長　(氏名)鵜澤 武雄　TEL 03-5651-8800
四半期報告書提出予定日　2022年1月13日　配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　:　有
四半期決算説明会開催の有無　:　無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績 (2021年3月1日～2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	113,475	△10.6	1,395	—	11,092	—	6,153	—
2021年2月期第3四半期	126,882	△20.6	△5,336	—	△3,892	—	△5,499	—

(注)　包括利益　2022年2月期第3四半期　6,667百万円 (　—%)　2021年2月期第3四半期 △5,697百万円 (　—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	95.18	—
2021年2月期第3四半期	△85.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	110,330	46,527	41.6
2021年2月期	131,921	40,142	30.0

(参考)自己資本　2022年2月期第3四半期　45,924百万円　2021年2月期　39,592百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年2月期	—	5.00	—		
2022年2月期(予想)				未定	未定

(注)　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　:　無

3. 2022年2月期の連結業績予想 (2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通　期	152,700	△10.4	2,700	—	15,000	—	7,200	—	111.36

(注)　直近に公表されている業績予想からの修正の有無　:　有
連結業績予想の修正につきましては、本日(2022年1月12日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」、「営業外収益および特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

※　注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)　：　無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（4）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Ｑ	65,129,558株	2021年2月期	65,129,558株
②　期末自己株式数	2022年2月期3Ｑ	462,055株	2021年2月期	489,326株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Ｑ	64,655,873株	2021年2月期3Ｑ	64,628,658株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……P. 2
（１）経営成績に関する説明 ……P. 2
（２）財政状態に関する説明 ……P. 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……P. 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 ……P. 4
（１）四半期連結貸借対照表 ……P. 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……P. 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 ……P. 8
（継続企業の前提に関する注記） ……P. 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……P. 8
（追加情報） ……P. 8
（セグメント情報等） ……P. 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（2021年３月１日から2021年11月30日まで）の連結業績は、売上高が1,134億75百万円（前年同期比10.6％減）、営業利益13億95百万円（前年同期は営業損失53億36百万円）、経常利益110億92百万円（前年同期は経常損失38億92百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は61億53百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失54億99百万円）と減収・増益となりました。

減収の主な要因は、株式譲渡により株式会社京樽を連結の範囲から除外したことです。国内の売上高は、緊急事態宣言が解除された10月以降の来客数は緩やかな回復基調にありますが、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までは回復しておらず、厳しい状況が続いています。しかしながら、前期に国内外で実行した大規模な営業時間の短縮、店舗休業の反動影響に加え、第３四半期の国内事業の既存店売上高の回復やアメリカ、中国の既存店売上高が堅調に推移したこともあり、株式会社京樽の連結除外の影響を考慮すると、前年同期に対して増収となりました。

営業損益については、緊急事態宣言の発令や宣言期間の延長による来客数への大きな影響はあったものの、前期から実行しているコスト削減に加え、販売価格の改定による粗利益高の改善や販売管理費低減などの取組みにより、前年同期に比べ営業損益は67億32百万円改善し黒字となりました。経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益については、営業外収益に各自治体からの営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金や雇用調整助成金等の助成金等収入93億45百万円を計上したことにより、前年同期に比べ大幅に改善しました。

セグメント概況につきましては、次のとおりです。

なお、第１四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しており、当第３四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分に基づいています。詳細は、「２．四半期連結財務諸表及び主な注記　（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項　（セグメント情報等）」の「２.報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

［吉野家］

売上高は789億23百万円と対前年同期比0.1％の増収となりました。

増収の主な要因は、各種施策の奏功により緊急事態宣言解除以降、来客数が緩やかに回復していることです。11月には既存店売上高が感染拡大前の2019年対比でも100％を超えており回復基調にあります。行動制限解除後の店内飲食を喚起するため、史上初の外食業界横断プロジェクト「#外食はチカラになる」を立ち上げ、「定食・御膳・鍋膳10％オフキャンペーン」を実施しました。コア層の来店頻度向上のため、高付加価値牛肉商品として「牛焼肉丼」、「牛皿麦とろ御膳」や冬の定番「牛すき鍋膳」を販売しました。新たな客層やライフタイムバリュー獲得のために「お子様割引」や「Pokemon ＧＯ」「ポケ盛」といったコラボレーション販促を実施し、高タンパク質・低糖質メニューの第３弾「ライザップ辛牛サラダ」を販売しました。テイクアウト需要の高まりに対応するため、「牛丼３丁割引キャンペーン」「牛すき鍋膳テイクアウト10％オフキャンペーン」を実施しました。「中・内食」需要の獲得のため「冷凍牛丼の具」の販売を強化し、販売数は好調に推移しています。新たな販売チャネル拡大のため、ドラッグストアでの「牛丼弁当」の販売を開始し、販売店舗は12月末で51店舗となりました。テイクアウトの利便性向上の取組みとして専用窓口設置店の拡大に加え、テイクアウト注文専用タブレットの導入拡大を進めています。デリバリー需要の高まりに対応するため、デリバリー対応店舗を914店舗(前期末＋163店)に拡大しました。また、原材料高騰に対し10月に主力商品の価格改定を行う等、機動的に施策を展開しました。増収に加え、前期から実行しているコスト削減により、セグメント利益は51億87百万円と、前年同期に比べ24億88百万円の増益となりました。同期間の店舗数は11店舗を出店し13店舗を閉鎖した結果、1,187店舗となりました。

［はなまる］

売上高は159億25百万円と対前年同期比7.5％の増収となりました。

増収の主な要因は、緊急事態宣言期間中の休業店舗数が前年同期に比べ減少したことや、商業施設店舗を中心とした来客数の回復に加え、昨年から実施しているテイクアウト・デリバリー需要の獲得により、既存店売上高が改善したことです。商品施策としては、３月に「とろ玉フェア」、５月に「冷かけフェア」、７月に「極寒白銀フェア」、８月に「清涼辛旨！ 冷やし担々フェア」、９月に「肉で麺を喰らう肉肉フェア」、10月に「とろ～り、あっ

たか！あんかけフェア」を実施しました。顧客利便性の向上や新たな客層獲得のために「楽天ポイントカード」の導入や「Pokemon ＧＯ」とのコラボレーションを実施しました。加えて「夏麺」「冬麺」を導入し、季節ごとの味わいを今まで以上に追求しました。高まるテイクアウト・デリバリー需要に対しては、テイクアウト専用メニューである「はなまるうどん弁当」の販売を行い、デリバリー対応店舗を255店（前期末＋63店）に拡大しました。また、新しい生活様式へ対応した非接触型のモデル店舗の検証を進めています。既存店売上高の改善や前期から実行しているコスト削減により、セグメント損失は９億42百万円と、前年同期に比べ15億97百万円の減少となりました。同期間の店舗数は、２店舗を出店し15店舗を閉鎖した結果、462店舗となりました。

[海外]

売上高は167億78百万円と対前年同期比16.8％の増収となりました。

増収の主な要因は、前年同期に比べ営業時間の短縮、休業店舗数が減少したことや、経済活動再開が進むアメリカ、中国の売上高が堅調に推移したことで既存店売上高が改善したことです。アメリカではテイクアウト・デリバリーのオーダー集中に対応するためにデュアルラインキッチンシステム導入店舗を拡大することで、テイクアウト・デリバリー需要を獲得できており、既存店売上高も前年の水準を大きく上回って推移しています。中国は前期の大規模な休業の反動によるプラス影響があることに加えて、既存店売上高は堅調に推移しています。アセアンは感染症の影響が９月以降は収束に向かっておりますが、厳しい状況が続いています。セグメント利益は９億33百万円と、前年同期に比べ６億27百万円の増益となりました。同期間の店舗数は57店舗を出店し、68店舗を閉鎖した結果、955店舗となりました。なお、海外は暦年決算のため１～９月の実績を取り込んでいます。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ215億91百万円減少し、1,103億30百万円となりました。

これは主に、金融機関からの借入金の返済を実施した結果、現金及び預金が75億40百万円減少したこと、および京樽セグメントの連結除外等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ279億75百万円減少し、638億２百万円となりました。これは主に、上記金融機関からの借入金の返済等により借入金が233億13百万円減少したこと（短期借入金164億75百万円、１年内返済予定の長期借入金と長期借入金合わせて68億38百万円それぞれ減少）、および京樽セグメントの連結除外等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ63億84百万円増加し465億27百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で11.6％増加し41.6％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年２月期の連結業績予想につきましては、2022年１月12日に開示した「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」、「営業外収益および特別損失計上に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年２月28日)	当第３四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,900	30,359
受取手形及び売掛金	6,381	6,047
商品及び製品	2,939	2,702
仕掛品	49	53
原材料及び貯蔵品	4,137	3,428
その他	5,744	3,087
貸倒引当金	△7	△29
流動資産合計	57,145	45,649
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,797	21,475
使用権資産（純額）	2,513	2,109
その他（純額）	15,086	12,333
有形固定資産合計	42,396	35,918
無形固定資産		
のれん	1,536	1,427
その他	2,992	2,612
無形固定資産合計	4,528	4,039
投資その他の資産		
投資有価証券	3,473	3,466
差入保証金	13,355	11,307
繰延税金資産	3,838	2,870
その他	7,243	7,154
貸倒引当金	△60	△76
投資その他の資産合計	27,849	24,722
固定資産合計	74,775	64,680
資産合計	131,921	110,330

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年２月28日)	当第３四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,140	4,673
短期借入金	18,687	2,212
1年内返済予定の長期借入金	6,783	10,422
リース債務	2,268	1,810
未払法人税等	284	1,997
賞与引当金	1,304	594
役員賞与引当金	9	4
株主優待引当金	258	532
資産除去債務	134	39
その他	12,814	9,130
流動負債合計	46,688	31,416
固定負債		
長期借入金	33,568	23,091
リース債務	7,035	5,517
退職給付に係る負債	289	268
資産除去債務	3,327	2,728
その他	869	779
固定負債合計	45,089	32,385
負債合計	91,778	63,802
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,519	11,540
利益剰余金	21,183	27,013
自己株式	△604	△571
株主資本合計	42,364	48,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	3
為替換算調整勘定	△2,737	△2,289
退職給付に係る調整累計額	△35	△38
その他の包括利益累計額合計	△2,771	△2,324
非支配株主持分	550	602
純資産合計	40,142	46,527
負債純資産合計	131,921	110,330

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2020年３月１日 至 2020年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2021年３月１日 至 2021年11月30日）
売上高	126,882	113,475
売上原価	47,468	37,967
売上総利益	79,414	75,508
販売費及び一般管理費	84,750	74,112
営業利益又は営業損失（△）	△5,336	1,395
営業外収益		
受取利息	76	66
受取配当金	1	0
賃貸収入	328	324
助成金等収入	997	9,345
雑収入	1,038	1,027
営業外収益合計	2,441	10,763
営業外費用		
支払利息	394	374
賃貸費用	145	193
持分法による投資損失	102	78
雑損失	354	421
営業外費用合計	997	1,067
経常利益又は経常損失（△）	△3,892	11,092
特別利益		
固定資産売却益	31	10
受取補償金	－	591
特別利益合計	31	601
特別損失		
減損損失	1,898	1,545
契約解約損	212	64
新型コロナウイルス感染症による損失	607	6
特別損失合計	2,718	1,616
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）	△6,579	10,078
法人税、住民税及び事業税	336	2,979
法人税等調整額	△1,367	893
法人税等合計	△1,031	3,872
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△5,548	6,205
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△49	51
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△5,499	6,153

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2020年３月１日 至 2020年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2021年３月１日 至 2021年11月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△5,548	6,205
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	2
為替換算調整勘定	△78	394
退職給付に係る調整額	△11	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	△68	67
その他の包括利益合計	△149	462
四半期包括利益	△5,697	6,667
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,648	6,601
非支配株主に係る四半期包括利益	△49	66

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて）

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響は全世界的に拡大し、現在も当社業績に大きな影響を与えています。初めて新型コロナウイルス感染症影響を受けた前連結会計年度(2020年度)の売上高は、感染症影響発生以前の前々連結会計年度(2019年度)に対し90.3%でした(比較期間にグループから離脱した会社、株式会社アークミール、株式会社京樽等を除外した比較。以下「実質前々年比/差」)。

当社は新型コロナウイルス感染症拡大前の売上高水準に回復するには数か年を要すると見込むとともに、テレワークの拡大、テイクアウトおよびデリバリー需要の高まりなど、生活やビジネス習慣の変化による売上高への影響は継続すると想定しました。このため、前連結会計年度より各事業の感染症対策を進めるとともに、売上高が新型コロナウイルス感染症影響以前の90%となっても利益が出せる事業構造づくりを掲げ、グループ全体でコスト低減に努めています。

当第３四半期連結累計期間(2021年３月から2021年11月まで)の売上高は、実質前々年比91.5%となる113,475百万円となりました。本年２度目の緊急事態宣言(７月12日)により、一時国内事業の業績回復は鈍化したものの、９月30日の緊急事態宣言解除以降、売上高は再度緩やかな回復傾向にあります。利益面においては、当第３四半期連結累計期間の営業利益は1,395百万円と様々なコスト低減施策の効果により、黒字化していますが、実質前々年差△1,724百万円と、依然新型コロナウイルス感染症影響を受ける以前の水準までの回復には至っていません。経常利益は、国内の緊急事態宣言などへの対応による助成金等収入9,345百万円を営業外収益として計上した結果、11,092百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,153百万円となりました。また今年度の損益の見通しについては、売上高152,700百万円、営業利益2,700百万円、経常利益15,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益7,200百万円を見込んでおります。

収益性については黒字化に伴い、改装投資を抑制していた国内吉野家の次世代モデル「クッキング＆コンフォート」への改装を順次進めており、積極的に改装店舗数を増やしていきます。また、ドラッグストアでの牛丼弁当の販売を開始するなど、新たな市場へ参入することで、成長を加速させていきます。なお、上記の売上高の見込みについては感染拡大による大規模な行動制限等のダウンサイドリスクは織り込んでいません。

会計上の見積りについては、上記の外部環境の推移やコストセーブ等の進捗や振れ幅も踏まえ、国・地域・事業ごとに行い、かつ、予測を複数用意した上で四半期ごとに固定資産の減損および繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っています。当第３四半期連結累計期間の減損損失は、上記の見積りに基づく測定の結果等により1,545百万円（前年同期は1,898百万円）を計上しています。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間(自　2020年３月１日　至　2020年11月30日)

１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）1	合計	調整額（注）2	四半期連結損益計算書計上額（注）3
	吉野家	はなまる	京樽	海外	計				
売上高									
外部顧客への売上高	78,075	14,664	13,576	14,366	120,683	6,199	126,882	―	126,882
セグメント間の内部売上高又は振替高	758	151	82	―	991	614	1,605	△1,605	―
計	78,833	14,815	13,659	14,366	121,675	6,813	128,488	△1,605	126,882
セグメント利益又は損失（△）	2,698	△2,540	△2,019	306	△1,554	△469	△2,023	△3,313	△5,336

(注)１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社14社を含んでいます。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△3,313百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,414百万円、セグメント間取引消去250百万円及びのれんの償却額△149百万円が含まれています。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

２.報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	吉野家	はなまる	京樽	海外	計			
減損損失	329	274	454	665	1,723	22	153	1,898

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　2021年３月１日　至　2021年11月30日)

１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への売上高	78,088	15,802	16,778	110,668	2,807	113,475	―	113,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	834	122	―	957	671	1,628	△1,628	―
計	78,923	15,925	16,778	111,626	3,478	115,104	△1,628	113,475
セグメント利益又は損失（△）	5,187	△942	933	5,178	△319	4,858	△3,463	1,395

(注)１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社14社を含んでいます。
２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△3,463百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,490百万円、セグメント間取引消去179百万円及びのれんの償却額△151百万円が含まれています。
３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

２.報告セグメントの変更等に関する事項

当社の連結子会社であった株式会社京樽は、2021年３月１日をみなし売却日として第１四半期連結会計期間より連結の範囲から除外したため、第１四半期連結会計期間より「京樽」を報告セグメントから除外しています。

第１四半期連結会計期間より、当社グループ内の事業再編に伴い、従来「はなまる」に属していました株式会社スターティングオーバー（2021年３月１日付で株式会社千吉より商号変更）の事業を「その他」セグメントの区分に変更しています。

なお、当第３四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第３四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第３四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

３.報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他	全社・消去	合計
	吉野家	はなまる	海外	計			
減損損失	490	227	206	924	87	532	1,545